



# こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口明子 ☎047-767-5030

伊原 忠 ☎047-488-7207

飯川英樹 ☎080-1239-8132

日本共産党  
八千代市議団  
ホームページ

<https://jcp-yachiyo.jp>

日本共産党八千代市議団メール：[kyousan@jcp-yachiyo.jp](mailto:kyousan@jcp-yachiyo.jp)



第657号  
2024年12月9日

発行  
日本共産党  
八千代市議会議員団  
八千代市大和田新田  
312-5

## 過度な競争教育システムが子どもをむしばんできたのでは

今年には1994年に子どもの権利条約施行から30年。1998年に国連の子ども権利委員会は日本に最初の勧告を行いました。内容は「過度な競争教育システムが子どもの身体的及び精神的健康に悪影響を与えていることを厳しく指摘し、適切な処置をとるように強く求めた」ものです。

その後も同様の勧告が繰り返し行われましたが、改善されませんでした。2012年、安倍政権は全国学力テストを復活。子ども同士や学校・自治体間で競争が始まりました。それまで横ばいであった不登校は増加し、いじめや子どもの自殺も増加しました。

学校が子どもにとって息苦しく、楽しくない場所になっているのは、過度な競争教育システムが持ち込まれ、子どもの身体的及び精神的健康に悪影響を及ぼしているからにほかなりません。

## 国でも八千代市でも不登校が増え続ける

文科省が10月に公表した小・中・高の不登校児童生徒数は過去最多で、41万5千人となり11年連続で増加しています。小中学生は34万人となっています。八千代市の小中学生では569人です。この数は学校一つ分に当たります。

不登校増加の理由として市教育委員会は、「児童生徒の休養の必要性の浸透等による保護者の学校に対する意識の変化、コロナ禍の影響による登校意欲の低下、特別な配慮を必要とする児童生徒に対する早期からの適切な指導や必要な支援に課題があったことなどが考えられる」と国の発表と同じ答弁で、納得できません。

## 校則の見直しで「権利の行使」を学ぶ

日本共産党は、どの子にも行き届いた教育の実現のために、「少人数学級」や教職員の働き方改革の推進、未配置教員の根絶など訴えてきました。

特に、教育の現場では、子どもが生き生きと過ごすことができるためにも、子どもの権利の条約に述べられている、①生命、生存及び発達に関する権利、②子どもの最善の利益を尊重する。③子供の意見表明権とその尊重、④差別の禁止です。これを保障する学校づくりが求められています。

### ●参考リンク

ユニセフ「子どもの権利条約」

<https://www.unicef.or.jp/crc/>



子どもの権利を自ら学ぶ機会として、「『自校の校則』の見直しができる子どもを育てるために校則の見直しが進んでいるか」を質問しました。教育長は「校則の見直しについては生徒指導提要（文科省が校則の見直しや公開について指導している文書）の改定から2年が経過しているので見直しが定着していると考えます」との答弁でした。

校則をホームページで公開をしている学校は、現在2校だけです。（柏市は21校中19校が公開）これが八千代市の現状です。見直しが進んでいるというのであれば、新旧の校則をホームページで公開し、子どもの権利がどれだけ定着してきているか明らかにすべきです。

日本共産党は子どもの成長・発達には子どもの権利条例化を求め、今後とも実現に向けがんばります。

